

《馬乗》の建築短歌

今もロシア連邦プーチン政権はウクライナを侵略中です。戦争は歴史の暗黒面です。私は、時の縁があって平和な日本国の両親のもとに産まれました。努力とは無関係な〈チカラ〉、本当にLUCKYです。

さて、私は今年から吉川弘文館編集部〈編〉『誰でも読める日本中世史年表』吉川弘文館（2007年・平成十九年）を参照図書として、日本建築史に関するインシデントについて、私なりに思考しながら建築短歌を詠ませて頂く事になりました。

今年のNHK大河ドラマ『どうする家康』の主人公・徳川家康が産まれたのは『国史大辞典』では天文十一年・壬寅（1542）となっています。

さて、その前年の天文十年・辛丑（1541）7月5日『誰でも読める日本中世史年表』を参照すると「大内義隆が厳島神社の祭礼再興を命じ、祭礼領の寄進等を行う〈厳島神社文書〉」と記載されています。

一方、岡本茂男・鈴木充・清水好子『日本名建築写真選集 第八巻 厳島神社』新潮社（1992年・平成四年）「厳島神社社殿略年表」には〈厳島神社文書〉の出来事は記載されておりませんが、天文十六年・丁未（1547）11月18日、大内義隆が大願寺の僧・尊海に請われて大鳥居を建て、105代・後奈良天皇の勅願を得る、と記載されています。

さらに、14年後の永禄四年・辛酉（1561）10月4日、毛利元就、毛利隆元・父子が大鳥居を再建する、と記載されています。

「大鳥居に何があったの？」という疑問になりまして、池上裕子・池亨・小和田哲男・黒川直則・小林清治・三木靖・峰岸純夫〈編〉『クロニク戦国全史』講談社（1995年・平成七年）を参照すると、大内義隆は天文二十年・辛亥（1551）に陶晴賢の謀反に襲われて自害しています。大鳥居を再建してから3年後の重大インシデントでした。

また、永禄四年・辛酉（1561）10月、毛利元就と小早川隆景・父子は大友宗麟と豊前国の門司城争奪のために合戦しています。

そうすると、毛利元就が大鳥居の再建・普請を監督するのは無理ではないか？と思考してみました。

今回の話題の参照図書の数は4つです。日本史と日本建築史を区別せず、正確で便利な年表が完成すれば、私たちの疑問はもっと簡単に解決する事ができますね。厳島神社は、あまりにも有名で美しい神社ですが、まだまだ分からない事、そして、分かっていない事があるようです。

現在は『YouTube』と『GoogleMap』の恩恵で、資料が無くてでも視聴できるようになりました。本当にLUCKYですね。



〈厳島神社の大鳥居〉



〈厳島神社の社殿〉

では、春の日に建築短歌を詠ませていただきます。

～ 厳島 丘の岩根も 春の色

社殿に祝ふ、沖の白波 ～

大阪工業技術専門学校 工業専門課程 I 部 建築学科 1998年卒業 川島 瑞穂